



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和2年11月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数371人

純粹な心

校長 清水 励

11月となりました。ほんのひと月前まで「暑さ対策」と言っていたのが嘘のように、薄着でいると肌寒く感じる季節となりました。特に今年は過ごしやすい秋の季節が短いようで、少し残念な気がします。

10月16日、鴻巣市陸上競技場において、市内の6年生が一堂に会する「陸上競技大会」が行われました。コロナ対策のため、種目数や競技方法等が例年と異なる大会となりましたが、6年生の皆さんの一生懸命に頑張る姿が、大会当日はもちろんのこと放課後の練習において見ることができました。大会当日に、自分が目指していた目標を達成できた人も達成できなかった人も、この陸上大会を通して学んだ「ものごとの頑張り方」を、今後の生活に生かしてもらいたいと思います。これからの人生にも、「その時」に最大の自分の力を発揮しなければならないこと、そして、そのために努力を積み重ねなければならないことが何回もあることでしょう。

陸上大会当日、とても素敵な場面に出会いました。

それは、男子走り高跳びに出場していた選手たちのことです。走り高跳びは、他の種目と異なり「誰もが必ず失敗して終わる競技」なので、ついつい他の選手の失敗を心のどこかで望んでしまいがちな種目です。ところが、そこにいた6年生の選手たちは、全く違いました。どこの学校の選手だろうが分け隔てなく、バーを落とさずに成功した選手には「よっしゃ!」「いいぞ!」と両手を上げて喜び合い、失敗してしまった選手には「あぁ、惜しい!」「ドンマイ! ドンマイ」「もう少しこうした方がいいぞ!」と励まし合う姿がありました。それはとても自然な姿に見え、私は思わず長い時間その素敵な選手たちの様子に見入ってしまいました。きっと、この選手たちには「自分はベストを出すために頑張ってきた。きっとみんなそうだろうから、みんなにもベストを出して欲しい」という、自分の順位を超えた、子供ならではの「純粹な心」があったことと思います。

過日、文部科学省から2019年度「問題行動・不登校調査」の結果が発表されました。いじめの認知件数は6年連続で増加し、61万2496件（小中高）あり、その中でも小学校の増加率が最も高く13.8%（5万8701件）との結果でした。増加の背景には「学校は初期段階の対応を強化するため、以前なら見過ごされていたいじめを積極的に把握するようになった（文科省担当者）」ということも事実としてあり、一概にいじめが増えて子供たちがさらに安心できない状況になったということではないと捉えています。本校においては、昨年度のいじめ認知件数はゼロ件でした。今後も、いじめは「当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているかどうか」であり、あくまで受けた側にあることを十分に踏まえ、早期発見・早期対応を心がけるとともに、生徒指導に関しては全職員で力を合わせながら対応してまいります。

子どもたちが小学校6年間で学ぶことは多くありますが、「よりよい人間関係の築き方」は、何よりも大切な小学校時代に学ぶべきことです。私たち教職員、保護者の方々は、子供たちにとって最も身近な大人であり、人としてのあるべき姿を日々示す「人としてのモデル」でもあります。差別や偏見、人を分け隔てするような言動等には細心の注意を払い、子供たちが「純粹な心」を失うことなく、真っ直ぐに育っていくよう接していきたいものです。